

○12番（斉藤政雄君） 12番、斉藤です。今日は暑い中、大変ご苦労さまでございます。3点について質問をいたします。

境町の人口について、本年4月から8月末までの出生数から死亡数を引いて自然増減は55名の減、転入者数から転出者数を引いた社会増減が111名の増、9月1日現在で境町の人口は2万3,888名との報告がありました。境町として、「選ばれる町 住みたい町」ということでいろんな施策を行っておりますけれども、1つの例として、25年住み続けるだけで3LDK30坪の、駐車場2台可能の土地がもらえるPFI事業、そして移住として英語移住、全ての子供が英語を話せる町にと。スポーツ移住も同じようなことで、子供たちは、親もそうですが、私の子供はいろんなことをやっているけれども、境に行けばその施設があるということで、できれば境に行きたいと、そういったいろんな声が聞こえてきます。

その中で、今皆さんご承知のとおり、境町ではテレビ等で、ニュース等でいろいろやっています。1つの例を挙げますと、ここにも書いてありますけれども、ニュースを見ると、境町に今住みました。先ほどの、25年住むと家がもらえるのですよと。そして、私の家は子供3人いるので、小さな子が二十歳まで医療費がただです。そういった形の中で、そして先ほども言いましたように、英語を学校で習えるので、そのまま子供は英語を覚えて、いろんなところへ行きたいなと思ったら、境町では子供たちがハワイに行った。そういった方たちが多くやっているということで、境町が今いろんな話題になっておりますけれども、我々はそういったものの町長の施策をこの10年近くいろんな形で議会として見てきました。今境町がこういった状況の中でありまして、いろんな事業を行ってきている境町ですけれども、人口減についてそれほど心配はしておりませんけれども、たまたまNHKの番組の中で、24歳、25歳の人が何人いるかで将来の人口が分かると、そういった問いで、番組を見ていました。

そこで、私も、境町では9地区単位で何人ぐらい24歳、25歳の人がいるのかなと思い、今回質問をいたしております。よろしくお願いを申し上げます。

次に、選挙用ポスター掲示板の使用についてでありますけれども、皆さんご承知のとおり、都知事選のときにいろんなポスターの掲示板が出ました。あのポスターの掲示板がこの境町においてもできるのかということを感じました。聞かなくてもいい問題でありますけれども、ただ私たちの町も来年選挙でありますので、ポスター掲示板という形になると、やはり東京都のポスター掲示板というのを例にしてどう考えるかも必要かなと思い、今回質問をしております。

次に、第3点として、教育長が忍田さんから今度栗原さんに代わりました。今までの教育長もいろんな形で境町のために全力を尽くしてきましたけれども、その中で今度の教育長に当たってはアルゼンチンとかハワイとか、またフィリピンとか、そして沖縄とか、いろんなところで子供たち、また我々が視察して友好都市など結んでおりますので、今後大変だろうなと思いますけれども、その中で1つとして、教育長に、新しくなった教育長の今後の考え方というのを抱負を述べていただければなと思

っております。というのは、1つ、前回の選挙からやや3年たっておりますけれども、そのときも出たのですけれども、二中学区の小中一貫校ということが出ました。その問題が今度は、この次の1年後にはどういった形になるのですかというものが我々も取り沙汰されているという中でありますけれども、普通であれば議会のほうでもいろんな形で特別委員会とか何かをつくって、議会ごとに報告を受けたりするわけでありまして、議会にはそういったものがないので、気づいたときに教育委員会のほうを呼んで、二中学区の一貫校はどうかかなというぐらいな、話は進んでおりませんけれども、そういったものが今度の教育長によってどう考えられるのか質問をしたいと思います。

その3点についてよろしくお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） 最初に、当町の年齢構成についての質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長 佐野直也君登壇〕

○企画部長（佐野直也君） 改めまして、おはようございます。それでは、斉藤議員の1項目め、当町の年齢構成についての将来総人口推計について伺いたいとのご質問にお答えをさせていただきます。

まず初めに、当町における人口の将来展望等についてちょっとご説明を申し上げたいと思います。町では人口の現状分析を行いまして、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示す指数であります境町人口ビジョンを平成27年10月に策定しまして、令和2年3月には改定版を策定したところでございます。先ほど斉藤議員さんからもお話がありましたが、当町の本年9月1日現在の人口が2万3,888人であります。この数字は、国立社会保障・人口問題研究所、通称社人研といいますが、ここが平成30年3月に推計した将来推計人口の境町の予測人口を、2万1,930人なのですが、こちらを1,958人と大きく上回っております。これは、当町が移住、定住、子育て支援などの施策を積極的に展開した結果が数字に表れたものであると考えております。

また、この社人研の平成30年3月の人口予測を受け、令和2年3月に改定した境町人口ビジョンにおける想定では、移住、定住、子育て支援等の施策を推進することで社人研の予測よりも882人多い2万2,812人を想定しておりましたが、こちらも現在の人口2万3,888人は想定を1,076人上回る結果となっており、当町の施策は奏功しているものと捉えております。

さらに、平成6年4月に民間団体の人口戦略会議が公表した令和6年地方自治体持続可能分析レポートにおきましても、茨城県内で消滅可能性自治体が17自治体とされた中、境町は今後も施策を推進する必要があるとされた一方、平成26年に日本創成会議が発表した消滅可能性都市リストの公表時と比較して若年女性人口の減少率が5.7%改善しているとされており、これまで総合的に行ってきた施策の効果が現れているものと考えております。

次に、当町の人口についてご説明を申し上げます。9月1日現在の町内5地区における24歳及び25歳の人口につきましては、まず境地区では24歳が104人、25歳が103人の計207人、長田地区では24歳が

77人、25歳が64人の計141人、猿島地区では24歳が32人、25歳が39人の計71人、森戸地区では24歳が28人、25歳が39人の計67人、静地区では24歳が13人、25歳が22人の計35人となっており、町全体の24歳及び25歳の人口につきましては、24歳が254人、25歳が267人の合計521人でございます。また、境地区における20歳から29歳までの20代の人口につきましては、1,045人となっておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。大丈夫ですか。

これで当町の年齢構成についての質問を終わります。

次に、選挙運動用ポスター掲示板の使用についての質問に対する答弁を求めます。

選挙管理委員会書記長。

〔選挙管理委員会書記長 関根多恵子君登壇〕

○選挙管理委員会書記長（関根多恵子君） 改めまして、おはようございます。それでは、斉藤議員の2項目め、選挙運動用ポスター掲示板の使用についての、都知事選挙においてポスター掲示板が売買対象とされるような事態が起きたが、当町の選挙でも同じようなことができるのか伺いたいとのご質問にお答えをいたします。

初めに、当町の選挙でも同じようなことができるのかについて。現在の公職選挙法ではポスター掲示板枠の権利譲渡を禁止する規定はないことから、当町執行の選挙においても同じようなことをすることは可能です。このため、7月7日に執行された東京都知事選挙で同一のポスターが複数掲示板に貼られたことなどを受けて鳥取県選挙管理委員会では、市町村に技術的助言ができる規定の整備や、ポスターへの候補者氏名の掲載、営利目的のポスター掲示の禁止などを具体的に規定する条例の整備も視野に、9月13日開会の議会定例会に提出する準備を進めていると伺っております。

同様に茨城県選挙管理委員会にも確認をいたしましたところ、国の動向を踏まえて対応するとのことでした。

続きまして、当町での選挙対応について。公営ポスター掲示場へのポスター掲示につきましては、候補者が行うことができる文書、動画による選挙運動の一つであり、その目的は、有権者の皆様に候補者の情報を知らせ、投票行動につなげるものでございます。このため、当選挙管理委員会といたしましては、国、県等の動向を確認しながら、必要な規定の調査、検討を進めて、本来の目的に則したポスター掲示場の整備に注力するとともに、他自治体の取組など事例を研究して、各選挙の公正かつ適正な執行に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

斉藤政雄君。

○12番（斉藤政雄君） 質問ではありませんけれども、今の答弁を聞きますと、それなりに選挙管理委員会のほうで考えているということでもありますので、できれば早いうちに条例などをつくれるので

あれば、つくったほうがいいかなと思いますけれども、よろしく願いして、終わります。

○議長（倉持 功君） これで選挙運動用ポスター掲示板の使用について質問を終わります。

次に、今後の教育行政の方向づけについての質問に対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長 栗原恵子君登壇〕

○教育長（栗原恵子君） 皆様、改めましておはようございます。齊藤議員の3項目め、今後の教育行政の方向づけについての町立小中学校の再編整備計画や海外の姉妹校との児童生徒の相互交流計画について伺いたいとのこと質問についてお答えいたします。

町立小中学校の再編整備計画についてでございますが、町立小中学校の再編整備計画につきまして、境町学校のあり方検討委員会から令和4年5月にいただいた提言内容や児童生徒数の推移、教育の動向などを踏まえて境町立学校再編整備計画素案を策定し、議員の皆様への説明をはじめといたしまして、全町民の皆様を対象とした説明会を開催いたしました。

その後、令和5年2月に土浦市の新治学園義務教育学校が、今後設置を計画しようとしている境第二中学校区の小中一貫校と規模や条件が近いことから、議員や教育委員の皆様で視察研修を行い、同年3月10日に行われました議会の全員協議会の中で、境二中学区の学校再編につきまして町議会全体として本計画を進めていくという方向で確認されていたところでございます。

P T A役員あり方検討委員会元委員の皆様にもお集まりをいただき、全体説明会の中で出された、小規模校でも存続という意見があったことも含めて報告させていただき、皆様から、地元での反響やご意見をいただきました。猿島小P T A会長からは、「役員や保護者の間でも計画に反対しているという話は全く聞けない」、境二中P T A会長からは、「現状を考えると早く進めたほうがいい」、区長からも、「子供が少なくなっているので統合することは合理的である」とのご意見をいただいたところでございます。

このような状況の中、再編整備計画を策定するに当たりましては再編整備に係る予算規模の見通しを持つことも重要であることから、小中一貫校の整備に係る建設費等について調査を進めておりましたが、建築間もない学校の規模や建設費を基に教育委員会で試算したところ、近年の建設費の高騰や人手不足等により、莫大な金額となってしまったことから、現在は建設手法なども含めて再度検討しているところでございます。

今後は、方向性が明確になった段階で境町立学校再編整備計画（案）を策定させていただき、子供たちが充実したよりよい教育を受けられるような義務教育学校の設置に向けて、統合準備委員会（仮称）等を設置して、先進的な義務教育学校の視察や調査を行うなど、P T Aの皆様や地域の皆様とともに取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、姉妹校との児童生徒の相互交流についてお話をさせていただきます。ハワイ州、ホノルル州と境町児童生徒の交流につきましては、中学校においては令和元年12月に境一中、二中とアリ

アマヌ中学校間で、小学校におきましては令和4年5月に境小学校とノエラニ小学校間でそれぞれ姉妹校協定を締結し、その後はコロナ禍の影響により、オンラインにより友好関係を深めてきたところでございます。

このコロナの影響が落ち着いた令和5年3月にはアリアマヌ中学校から生徒11名が初めて来町し、その後、昨年、令和5年10月にはノエラニ小学校から児童6名、そして今年の3月にはアリアマヌ中学校から15名の生徒に来町していただき、当町の生徒、児童宅にホームステイをしながら、中学校では剣道や茶道、小学校では書道や折り紙などの授業を受け、初めての日本文化に触れながら境町の子供たちと活発に交流し、親睦を深めました。

また、境町からは令和5年8月に中学生15名を初めてアリアマヌ中学校に派遣いたしました。2回目の派遣につきましては、中学校10名、小学生10名にて、20名にて、先週の8月25日から30日までの期間で派遣事業を実施いたしました。中学生においては昨年に引き続き2回目、小学校においては初めての海外派遣となりました。アリアマヌ中学校では800名の生徒がエントランスに集まり、出迎えてくれたほか、フラダンスやファイアダンス、大変歓迎していただきました。また、ノエラニ小学校では全児童による歓迎会を開催していただき、ホストスチューデントによるフラダンス等の歓迎がございました。当町の児童生徒たちもそれぞれの学校で英語で自己紹介をしたり、ダンスを披露したりいたしました。また、小中学校ともに英語での授業の参加や体験学習を行うとともに、ホストファミリーの方々と過ごすことで文化や風習の違いなど貴重な体験をいたしました。参加児童生徒からは、「現地で実際に行われている単語やフレーズを学ぶことができたので、今後は自分でも実際にそれらの言葉を使ってコミュニケーションを図っていきたい」、また、「恥ずかしがらずに自分の意見を伝えることの大切さを学んだので、今後は自分から積極的に行動していきたい」、「もっと英語をしっかりと学ぶ必要を感じた」などの多くの前向きな感想がございました。

この姉妹都市交流事業につきましては、保護者からも、「学校で先進的な英語を教えてもらえるだけでなく、無料でハワイに行く機会もいただけて大変ありがたい」との意見をいただいております。ホノルルのホストファミリーからも、「境町の子供たちを受け入れることができて本当によかった」、「短い期間だったが、本当の家族のような時間を過ごすことができ、かけがえのない思い出になった」などの感想をいただいていることから、今後も継続して実施してまいりたいと思います。

次に、アルゼンチンとの交流につきましては、平成28年10月に長田小学校の代表者6名を派遣したのをはじめといたしまして、29年度からは町内5校全ての小学校から参加希望者を募り、平成29年度、30年度にはそれぞれ12名、平成31年度には13名の児童を派遣させていただきました。しかし、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響により、児童派遣事業は実施できていない状況でございます。

事業の再開に当たり、現在の課題は、今までの派遣事業の際に大変お世話になった在アルゼンチン茨城県人会長の小池ウンベルト氏のご退任されたことにより、現地との調整が難航していることです。

このような状況の中、駐日アルゼンチン大使館より、アルゼンチンの2つの州が当町との姉妹都市を希望している旨の情報をいただいたことから、今後は2つの州を訪問し、それぞれの自治体を視察した上で、子供たちの受入れが可能か、また現地の治安や環境等も調査し、姉妹都市の締結や派遣事業の実施についてアルゼンチン大使館等の関係機関と調整を図っていきたいと考えております。

また、姉妹都市のフィリピン、マリキナ市との交流につきましては、学校間でのオンライン等により進めていく計画でありましたが、このたびのフィリピンの洪水被害により、一時中断している状況でございます。今後はマリキナ市の関係者が9月14日開催の花火大会に来町することから、そのときに具体的な話を進めて、市長に伝えていただきたいと考えております。

今後も児童生徒の海外交流を継続して実施し、子供たちが実用的な英語力や国際感覚を身につけ、グローバル社会で活躍できるよう人材育成に取り組むとともに、各種事業を積極的に実施してまいりますので、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

齊藤政雄君。

○12番（齊藤政雄君） 交流関係は、今教育長が言ったようにいろんな面であれですけれども、一貫校ということ、二中学区の。1回目の質問と同じで、今の町長の施策によると、境に住んでいるのですよ、境に住みたいですよという人が多くこれからいろんな形の中で来るかと思うのですけれども、その人たちはどうしても、悪くても長田近辺、うまくすると大体町内だと。そうすると、やっぱり、静小は別としても、いわゆる二中学区、森戸、猿島地区においてはどんどん、どんどん人口が減るという形でありますので、できれば、教育委員会いろんな形でやっているということですから、我々議会としても、やはりこれから子供たち、いろいろ考えると、やっぱり人口を増やすのはなかなか難しいものですから、町場とか、特に長田小はどんどん増えるかと思うのですけれども、森戸、猿島においてはかなり難しいと思うので、やっぱり子供たちが一貫校で、そして境小だのいろんな形に負けないという基本をつくったほうがいいのかと思いますので、そういったものを考えると、やっぱり我々なったときも、境西高をつくるときにはいち早く特別委員会を議会でもつくって、境西高を早くつくるのだということをやったことを思い出しますけれども、それを考えたときに、やはり3年、4年たってしまっていますから、そうするとこれが停滞しますと、子供たちが慣れてしまうと、何も大勢でやらなくたって、1つの、20人いたのが10人でもいいのではないかという声が出てきてしまうと、一貫校なんて要らなくなってしまうみたいな感じになりますので、そのところをこれからいろんな面で考えていただいて、教育委員会主体でやっていることもいいのですけれども、やはり教育委員会ではちょっと難しい点もあると思えば、やはり我々議会のほうにもある程度お願いをするものがあるのではないかなと思いますので、そのところだけちょっとお伺いをしたいなと思います。

○議長（倉持 功君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

教育長。

○教育長（栗原恵子君） ただいまの斉藤議員のご質問、ご意見にお答えをさせていただきたいと思
います。

大変ありがたいお話をいただきまして、議会のほうでも皆さんご協力を、特別委員会を立ち上げて
ご協力をいただけるというお話でしたので、私どももしっかりと計画を立てまして、またお話をさせ
ていただきながら、ご教示いただければと思います。

二中学区の学校がよりよい学校になるということは、やはり魅力ある学校づくり、こういったこと
が求められておりますので、例えば今小学校と中学校を併せた義務教育学校ということで設置を考え
ておりますが、その中身につきましても、できるだけ、文科のほうの規定はございますが、どんな中
身を学年構成にしたらいいかとか、それからどんなカリキュラムをつくったらいいか、そして目指す
学校像をしっかりと掲げて、皆さんとご相談しながら進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろ
しくお願いいたします。

○議長（倉持 功君） それでは、補足で町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、補足をさせていただきます。

改めまして、おはようございます。ご苦労さまです。今回斉藤政雄議員から1項目から3項目まで、
今の時流に合ったご質問をいただきました。その中でも、先ほど斉藤議員からは、特別委員会も議会
のほうでもつくったらいいのではないかとという提案がありましたので、ぜひ議会の中でもんでいただ
いて、つくっていただくとありがたいかなと思っています。

教育委員会並びに町としては、議員の皆様方をお願いできる部分というのは、やはり予算の部分だ
と思います。今回も試算をしたところ、もう20億円を超える。長田小を造ったときが、あれが大体10
億ぐらいかかったのですか。境二中を造ったときは6億5,000万ぐらいでしたよね。ですので、どんど
ん、どんどん値段が上がって行って、小学校単体で20億という予算を持ってきたものですから、もっ
と安くできるはずだろうというところで今検討していたところであります。ですので、お金がついて、
さらには教育委員会、人員も本当は5人から10人ほど増やさせていただければもっと仕事は進むのか
なというふうに思っていますので。今定数230人で、ずっと就任以来事業は増えております。予算も決
算も増えております。ですが、230人の職員でずっとやっているものですから、ここら辺が議員の皆様
とともに、いや、そういう事業があるし、年齢構成を見て、もう少し職員増やしてもいいのではない
かと、そういう分があれば、順次そういった形で教育委員会に割り当てることによって、今の英語の
事業もそうですし、建てかえの事業もそうですし、今後のそういった特色ある事業も変わっていくの
ではないかというふうには思っていますので、この辺は議会の皆さんとともに、できる部分、できな
い部分を早急に検討しながら、先ほど斉藤議員が言われた、これが慣れてくると、小規模校でいいの
ではないか、そのようになってしまう危険性がある。これは本当にそのとおりだと思っておりますの
で、やはりどういう未来像があって、だから猿島、森戸地区も住んでいいところだよと。猿島地区、
森戸地区のお子さんたちが境の町なかへ移住して、それで境小学校に通っていくという、こういう現

状も多分近隣であるのではないかなというふうに思っていますので、そういう部分、やはり二中は特色を持った学校にしていくということが、やはりその学校があるからその周りに住みたい。北海道の東川も、皆さんにも見に行ってくださいけれども、あんな場所と言ったら悪いですけども、1万人以上いたところが6,900にまで減ってしまって、今8,000人まで増えているわけですね。やっぱりあそこの中心にあるのは、あの小学校ですね、大きな小学校。やっぱりああいった部分があるので、引っ越したいなといって引っ越してくるという話をこの間も菊地町長から聞いたところでありますので、ぜひそういった部分、二中学区を何とか盛り上げていくためにも、そして二中学区の子供たちをそろそろしっかり手当てをできるように、町としても教育委員会とともにやっていきたいというふうには思っておりますので、議会の皆様と予算についても、どういうふうにすれば確保できて、どういう建物でいいとか、そういった部分もいろいろ話していけばいいと思っていますし、教育委員会だけだと、学校の先生、今の小学校の先生たちの規模のクラス、学校の先生の教室をさらに造らなくてはならないと言われるわけですね、今二中の職員室があっても。グラウンドも2つ必要だとか、訳の分からないことを言うわけですね。やっぱりそうではなくて、しっかりとした中で、そういう適正規模の中で特色を持った学校をやっていくこと。さらには、それは町だけではなくて、もしかしたら民間にも頼るかもしれない部分があるかもしれません。今様々な上場企業も境町と教育でタイアップをしたいと言ってきておりますので、そういう部分が例えば二中学区に入ったならば、その特色があるから引っ越してこよう、もしくは海外からもそういうお子さんたちが引っ越してこよう、そういう未来まで描ければ、もう一中も二中も関係ないですね、境町ですから。外から来たときにはそんなに距離感はないですから。そういった部分まで含めて、この今後10年先を見据えた中学校の統廃合というものを検討していきたい。しかも、早い段階でですね。そういうふうには考えておりますので、よろしくお願いいたしますと思います。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

齊藤政雄君。

○12番（齊藤政雄君） 大体分かりましたので。ただ、354バイパスと同じような時期にうまくできるといいなと思っていますので、よろしくお願いします。

終わります。

○議長（倉持 功君） これで齊藤政雄君の一般質問を終わります。